

急性アルコール中毒編

～予防ポイントを実践して病気や事故を未然に防ぎ、救急事故を予防しよう！～



急性アルコール中毒は、無理な飲酒などで血液中のアルコール濃度が急激に上昇することで起こります。重篤な場合は救急搬送が必要ですが、本人や周囲が適切な飲酒を心がけることで防ぐことができる救急疾患です。

今日からできる「急性アルコール中毒」予防

- ☐ 飲酒を強要しない・させない
- ☐ 食事をしながら、ゆっくり飲む
- ☐ 空腹時の飲酒は避ける
- ☐ 一気飲みや短時間の多量飲酒はしない
- ☐ 体調が悪いとき、薬服用後は、飲酒を控える
- ☐ 酔った人を一人にせず、様子を確認する



お酒が飲めない方は、その旨を事前に周囲の人に伝えておきましょう。もし無理強いしようとする人がいても、他の人がたしなめてくれることがあります。

一つでも当てはまれば迷わず119番通報

- ☐ 意識がない、揺すっても起きない
- ☐ 普段通りの呼吸がない
- ☐ 体が冷たく、ぐったりしている
- ☐ 吐いたものを喉に詰まらせている
- ☐ 呼びかけても反応が悪い

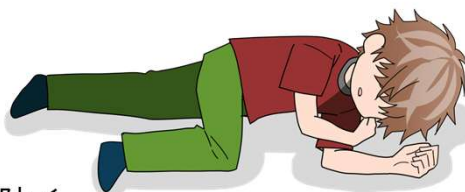
京都市の急性アルコール中毒搬送傾向



- ・7月と12月に多い
 - ・18歳～29歳の年代で約5割を占める
- ※飲酒は20歳から！

応急手当と対応

- ☐ 絶対に一人にしない
- ☐ 無理に吐かせない
- ☐ 毛布などで保温して、体温の低下を防ぐ
- ☐ 意識障害がある場合は、吐物による窒息を防ぐため回復体位(体を横向き)にする



回復体位
傷病者を横向きに寝かせ、気道を確保した体位

